

《生活文》 名前を使って自己しようかい

アクトン 小五

な ならいごで、テニスをしています。
 か かったり負けたりだけど、試合にも出ます。
 む むずかしいショットや
 ら ラリーやサーブ、ボレーの練習をがんばって、
 る ルブレブやジョコビッチみたいなの
 選手になりたいです。
 い 家ではレゴで遊ぶのが好きです。
 じ 自分で考えた、ぼくのオリジナルのレゴの作品を
 作っているところです。



これから一年間いっしょにがんばりましょう。

【評】自分の名前を使って、楽しく自己紹介ができました。テニスの選手、すばらしいですね。心から応援しています。

《生活文》 春を見つけたいよ

アクトン 小二

春になると、さくらやすみれがさいて、
 どうみんしていたこん虫が、おきだします。
 学校には、一年生が入ってきて、ぼくは
 二年生になりました。おにいさんになりました。
 した。



春は、ぼくをやさしくして、あたたかくします。

【評】「春はぼくをやさしくして、あたたかくします」という表現がとてもすてきですね。春の訪れに心を動かされている様子がよく書けています。

《生活文》 てんとう虫のおともたち

アクトン 小二

きょう、学校のじゅぎょう中に
 クラスにてんとう虫が入って
 きました。



クラスの中をグルグルとたの
 しそうにとんでいました。まるで、てんとう虫がじゅぎょう
 をうけているみたいで、うきうきしました。

【評】身の回りで見つけた春を書く課題で、てんとう虫について書いています。飛び回るとんとう虫の様子が生き生きと表現できました。

《生活文》 なりきりで書こう

アクトン 小四

サッカーボール（物・三才）

ぼくは、人間が大きらいだ。だって、
 ぼくたちの気持ちを何にも考えない
 で、ぼくたちをバンバンけるんだもん。
 ぼくは、
 「サッカーやるぞ。」



という声が聞こえると、ああ最悪だあと思ってしまった。
 ぼくは、何で生まれてきたのかわからなくなってきた。
 ただけられるためだけに生まれたなら、最悪だよ。

けられるだけじゃなくて、どろどろにもなる。ぼくは
 きたなくなるのが大きらいって、人間たちは知っている
 のかな。こんな人生大きらいだ。生まれかわったら、もっ
 といい物になりたいよ。たとえば、ダイヤモンドやほう
 石になったら、もっと大切に扱われるんだらうな。
 【評】サッカーボールの気持ち、なりきって上手に書きましたね。

これからは丁寧に使おうと思えましたよ。

《物語》 「春風をたぐって」物語のついで

ペンタム 小三

夏になりました。ルウはノノンをかがしに森の中に行
 きました。ノノンはあついののががてで、木のかげで休
 んでいました。

「また、すてきなけしきをいっしょに見に行こうよ。」
 「あつくて動けないよ。」

ノノンは、また目をしていました。
 「じゃあ秋になったら、いっしょに行ってくれるかな。」
 「いいよ。」

秋になりました。ルウがノノンに会いに行くと、こん
 どは前みたいにはなをひくひくさせていました。

「何かのにおいがするんだね。」
 「こっちこっち。」

ノノンの後をついていくと、白いコスモスの花ばたけが
 ありました。雪がつもったみたいで、ルウのたから物の
 しゃしんのけしきみたいでした。

「きれいだね。」
 二人ともうっとりして見ていま

した。
 「雪がふっているみたい。」
 ルウが言いました。

「雪ってなあに。」
 ノノンがふしぎそうな顔をしました。

「こんど、雪のしゃしんを見せてあげるね。このコスモ
 スはたけみたいで、きれいだよ。」
 しばらくするとさむくなってきたので、二人でなかよく
 帰りました。

【評】「ぜんぜんわくわくしない」と思っていた森が、ルウにとつて
 すてきな場所になったようですね。コスモスの花畑に見とれる
 二人の姿が目につきますよ。

二人の姿が目につきますよ。

